

金 賞

わたしたちの大切な水

古川 笑麻

中間市立 中間東小学校

わたしは、蛇口をひねったらいくらでも水は出てくると思っていました。けれど、社会科の「水はどこから」や、遠賀川下流浄化センターの方々からの出前授業を通して、水はかぎりある大切なしげんだということが分かりました。

それから、出前授業でびっくりしたことが二つありました。

一つ目は、処理がていねいなところです。まず、沈砂池で汚水中の大きなゴミや土砂を取り除きます。次に、最初沈殿池で汚水をゆるやかに流して、小さなゴミや泥を沈めます。そして、反応タンクで汚水に微生物の入った汚泥をまぜ、空気をふきこんで汚れを沈みやすくします。最後に最終沈殿池で分解して沈みやすくなった有機物を沈めて、処理した水と汚泥に分け、塩素などで消毒し、水質検査をして海や川に流します。わたしが使った水がこんなにていねいに細かく処理されて、きれいになってから海や川に流されていると思っていなかったのだととてもびっくりしました。

二つ目は無駄にしないことです。反応タンクで汚れを食べて次の最終沈殿池で沈んだ微生物は反応タンクにもう一度もどされたり、最初沈殿池、反応タンクその汚泥と一緒に汚泥処理しせつに送られます。そこで、汚泥の水分をしぼってもやした灰がセメントの原料になったり、汚泥から取り出した消化ガスがバスなどのねん料になったりします。他にも再生水といって放流せず、下水処理によりきれいにな

った水がふん水の水やトイレを流す水にも使われています。水だけを無駄にしないのではなく、汚泥をしぼってもやしたあとの灰や汚泥から出た消化ガスも無駄にしないのがびっくりしました。

これらを通してわたしは下水処理場がなかったら海や川は大変なことになっていたと思います。だからミゾやますにごみをすてないこと、節水に取り組むことなどを心がけ、水はかぎりあるしげんだということをわすれずに生活していきたいです。